

III アジモ場の形成と環境要因

1 アジモの種類とモ場の分布

南西諸島には次に示す6属9種が分布し、沖縄島周辺にはウミシヨウブを除いて8種が分布する。

リュウキュウスガモ *Thalassia hemprichii* (Ehrenb.) Aschers.

ベニアマモ *Cymodocea rotundata* Ehrenb. & Hempr. ex Aschers.

リュウキュウアマモ *serrulata* (R.Br.) Aschers. & Magnus.

ボウアマモ *Syringodium isoetifolium* (Aschers.) Dandy.

ウミジグサ *Halodule uninervis* (Forsk.) Aschers.

マツバウミジグサ *H. pinifolis* (Miki) den Hartog.

コアマモ *Zostera japonica* Aschers. & Graebn.

ウミヒルモ *Halophila ovalis* (R.Br.) Hook.

ウミシヨウブ *Enhalus acoroides* (L.f.) Royle. ※

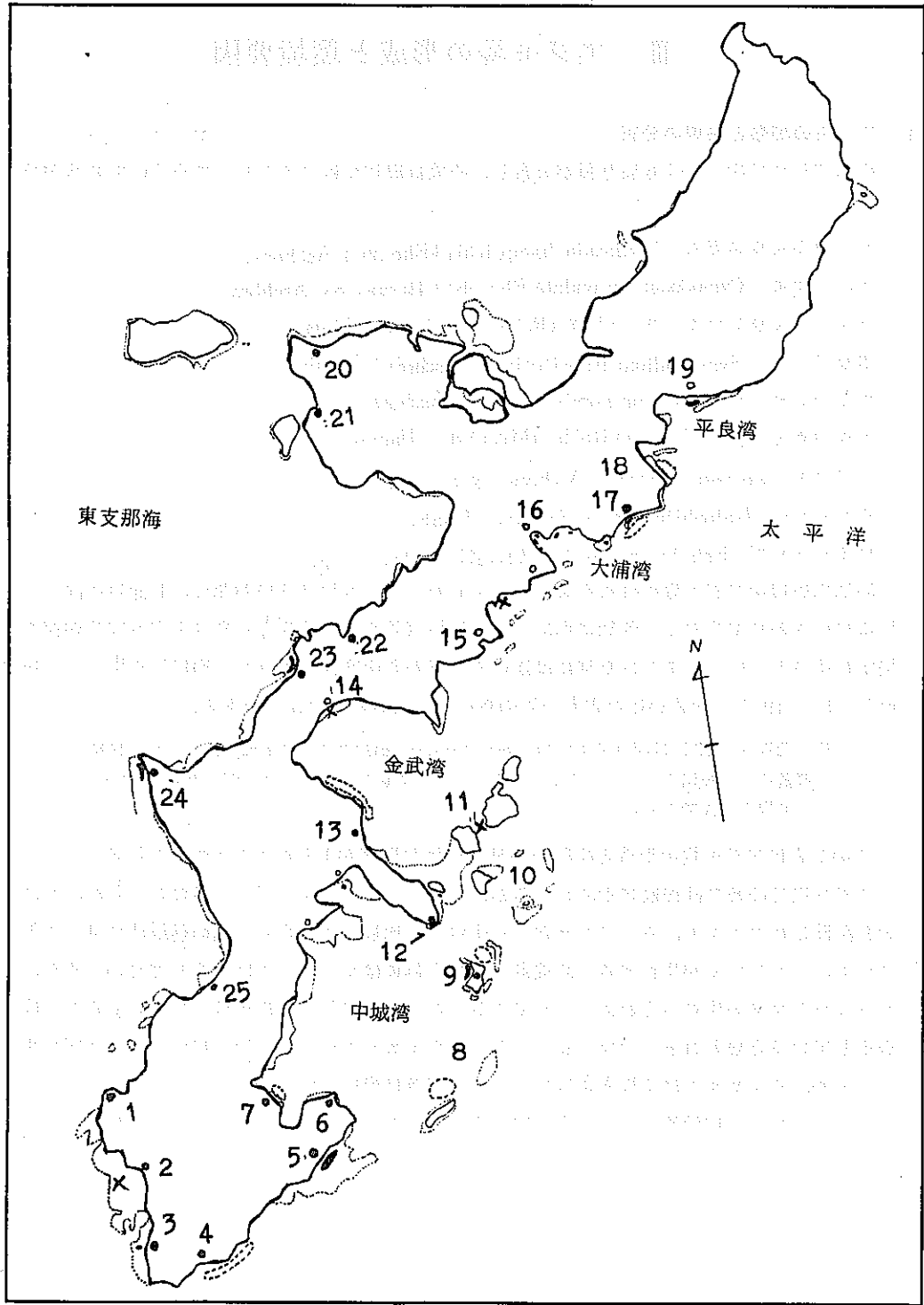
沖縄島周辺のアジモ場の分布を図-22に示した。アジモ場は湾口が北ないし北東に向いている場所にはきわめて少なく、冬期に卓越する季節風（月平均風速 $8\frac{m}{s}$ ）をさえぎる岬等が存在する場所に生育している。そこは夏期には逆に南南東から南南西の風（月平均風速 $6\frac{m}{s}$ 以上。琉球政府気象庁。1971）が強いけれどもモ場の形成は阻害されないようである。

※ 菊地（1973）は海草アマモ *Zostera marina* の群落をアジモ場、ホンダワラ科褐藻の群落をガラモ場とよんでいるが、便宜上、ここでもリュウキュウスガモ等の海草群落をアジモ場とよんでおく。

このことはアジモ場の形成と漂砂の移動は密接な関係があることを示唆している。

アジモ場は砂及び砂礫底に形成されるが、種によって生育する場所が異なる。すなわち岸よりの腐泥砂帯にコアマモ、ウミジグサが多く生育し、比較的波の当る藻場の前縁部にリュウキュウスガモ、ベニアマモが生育する。沖縄島の西海岸側にはボウアマモは生育してない。また、リュウキュウアマモの生育もきわめてまれである。この両種は他の種に比較してより安定した底質に適應していると思われる。マツバウミジグサとウミヒルモは岸から沖合にかけて広範囲に生育しているが、ウミヒルモは藻場とよばれるような群落は形成しない。

なおガラモ場は比較的波の荒い岩礫底に生育し、アジモ場より沖合側に帯状に分布している。



図一 22 アジモ場の分布域と調査地
 ×埋立，採砂，土砂の流入によるモ場の消滅地域
 ○ アジモ場 ○ ガラモ場